

医療・防災産業創生協議会

総会（令和4年度） 資料（抜粋版）

2022年4月27日

医療・防災産業創生協議会 事務局



一般財団法人 日本総合研究所

医療・防災産業創生協議会ホームページ：<https://www.mdpc.ne.jp/>

令和3年度活動報告

医療・防災産業の創生に向けた提言（2021.6.30）

1. 短期（～3年メド）：先進事業の社会実装（プロジェクト・エンジニアリング）

【提言1】高機能・多用途コンテナと管理運用システムを開発し、全国の「防災道の駅」等への展開を通じて、平時の地域力と有事の災害対応力を高めることが必要。

<平時> 備蓄倉庫、移動式診療所、移動式キッチン、イベント（訓練・体験・宿泊・お祭り）等

<有事> 物資供給、避難所高度化（医療、炊き出し、トイレ、風呂、電源等の支援）、多目的船への展開

シンボリック
プロジェクト

【提言2】医療・防災に係る技術・製品・サービス等に係るニーズ、情報（品質・性能・価格等）、生産・供給力、市場動向等のデータを集約・把握・分析するとともに、市場性の確保に向けて国内外の多種多様なユーザーとのビジネス・マッチングを行うことが必要（協議会のデータベース化、防災（危機管理）商社化）。

2. 中期（～5年メド）：制度設計（ルール・メイキング）

【提言3】実効性の高い産業振興施策として、認証ルールの明確化、国際標準化への対応、規制緩和、研究開発・企業間連携等の支援枠組整備などを実施するとともに、頑健なサプライチェーンの構築に向けた法制面の検討を行うことが必要。

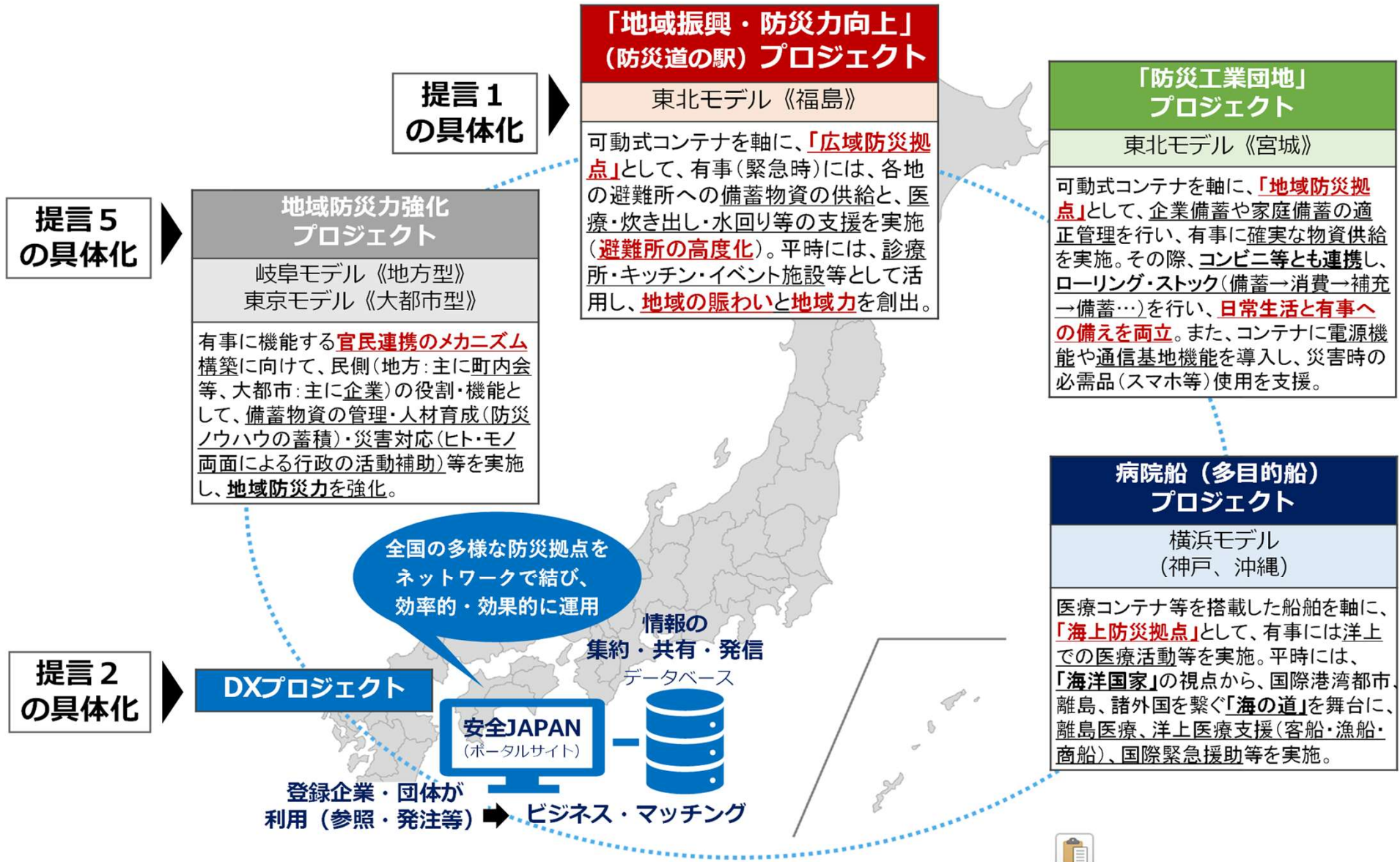
【提言4】オールハザード・アプローチに基づき危機管理法制を再編するとともに、危機管理組織の機能強化や医療・防災産業施策の司令塔の創設を行い、危機管理や医療・防災産業振興に関する中長期のビジョンを提示することが必要。

3. 長期（～10年メド）：社会のあり方の変革（ソーシャル・デザイン）

【提言5】日本社会の持続可能性を高めるため、地域コミュニティ組織等の役割・機能を見直すとともに、その活動を支える資金調達スキーム等を整備することで、社会的包摂と危機管理が両立するメカニズムを構築し、地域の活性化を図ることが必要。

提言の社会実装（プロジェクト化）

○提言の社会実装に向け、リーダー企業を中心に、①「地域振興・防災力向上」（防災道の駅）プロジェクト（提言1）、②DXプロジェクト（提言2）、③地域防災力強化プロジェクト（提言5）の検討を実施。



① 「地域振興・防災力向上」プロジェクト：道の駅等への提案

○道の駅等の防災拠点の目指す姿、ひいては「安全・安心で住みよい」まち・地域づくりに向けて、「高機能ユニット」と「防災DX」を組み合わせたプロジェクトの実施を提案。

目指す姿

広域的な防災拠点化

広域的な防災拠点としての機能強化

- 駐車場の拡張
- 備蓄倉庫の移設・拡張
- ヘリポートの増設
- 総合防災訓練 ...など

ヘリポート増設

道の駅 施設拡張

災害に強く安心・安全な地域へ

観光・地域活性化、更なる魅力増進

- 道の駅での加工・調理・6次化
- アウトドア専用駐車場
- ワーキング・シェアスペース
- セミナー・教室等の開催 ...など

約100万人
約79万人
利用者の増加

H29年度 R2年度 R4年度以降

雇用増・所得増・税収増へ

プロジェクトを通して事業計画の実現（地元第一）を支援（地域貢献）

弊協議会（会員企業等）が地元企業等と連携して、「地域振興・防災力向上」プロジェクト（東北モデル）の社会実装を実施することで、道の駅等をはじめ地域の**目指す姿の実現**に積極的に寄与する。

プロジェクト実施概要

高機能ユニット（コンテナ等）

高機能ユニット（**配置/可動**）を道の駅に配置し、災害時の有用性：総合防災訓練（地元及び広域圏）
ふくしま総合災害対応訓練機構

平常時の有用性：防災セミナー
防災教室（歯科・医療等含む）
避難所体験
各種イベントへのユニットの貸出

などを通じた有事と平時の有用性を確認。

- * 駐車場の拡充等の必要性
- * 地元農産品を使用したご当地グルメの移動販売

プロジェクトで使用・計画する高機能ユニット

- インフラユニット（電気、水）
- キッチンユニット（食事）
- 医療/歯科用ユニット
- 備蓄用（多用途）ユニット

※設置式（強み：大容量、多用途性） **組み合わせた運用を想定**

○可動式（強み：機動力、柔軟性）

※具体的なユニット、担当企業は参考（次頁）を参照のこと

防災DX

地元の医療・防災関連企業（災害食等）をデータベースに登録することで販路開拓

道の駅利用者のアプリダウンロードを促し年間**利用者100万人超の顧客基盤を構築**

災害時の有用性：情報提供
平常時の有用性：販促活動に使用

*** 日常からの防災力向上**
*** 地域活性化のための宣伝及び販路拡大（市場創出）**

広域関東圏等利用者

広域圏利用者（周辺地域）

道の駅 地元利用者

道の駅アプリ

BIPROGY

まちケア・commons（日常からの防災力向上）

弊協議会会員企業が運用・協力

「目指す姿」の実現へ積極的に寄与（技術力・事業力による地域貢献）

スケジュール（案） 地元とよく協議の上、準備期間を含め2022年4月から2023年6月までを目処に実装予定



道の駅「猪苗代」地域創生推進協議会による

(参考1) 高機能ユニットと防災DXを組み合わせた活動 (例)

高機能ユニット (イメージ)

インフラ (電源/給水) ユニット

(日軽金/カネカ)



定置(大容量)+可動式(機動力)を想定



キッチンユニット

(セブン&アイ 予定)



可動式(機動力)を想定



医療/歯科ユニット

(サンスター 予定)

SUNSTAR

可動式(機動力)を想定



備蓄用 (多用途) ユニット

(梅花堂/コバヤシ等)



定置(多用途)+可動式(機動力)を想定



防災DX

データ連携

(ビプロジー等)



避難保険

(あいおいニッセイ同和損保)

MS&AD



平常時の活動 : 観光・地域振興活性化へ

- ・冬期・積雪も活用した再生可能エネルギーの利用拡大
- ・周辺で開催されるイベント(花火大会、湖水浴、スポーツ等)への貸出

(例) 地元事業者とセブン&アイの連携

- ・地元農産品を使用したご当地グルメの提供/商品化(6次産業の展開)
- ・生鮮食品等の移動販売/高齢者等の見守り

(例) 地元歯科医院とサンスターの連携

- ・学校や公民館などでの出張オーラルケア学習・講習
- ・山間部等における移動診療

- ・防災備蓄品の適正管理
- ・防災用品の企画/体験/販売
- ・RVパーク利用者向けサービスの提供

(例) 地元事業者と日本ユニシスの連携

- ・道の駅利用者データベースの構築/活用
- ・防災アプリとの連携(ローリングストック等)

(例) 地元宿泊施設とMS&ADの連携

- ・ホテル避難の体験会実施(日帰り/宿泊)

地元企業の共有資産として活用

期待される効果

地元事業者による新規事業

雇用増

利用客誘致/地域魅力発信

所得増

+

税収増

脱炭素化

インフラ機能性確保

生活利便性向上

健康増進

コスト縮減

安全性向上 ...etc.

安全・安心で住みよい

まち・地域づくり

災害時の活動 : 広域的な防災拠点へ



電気・水、食事、医療の高機能ユニットを機動的に展開することにより、以下の活動を適時的確に支援

① 広域防災拠点としての円滑な活動

(DMAT隊員等の宿泊・休憩場所の提供、ケガ人のヘリ搬送までの症状安定化等)

② 周辺避難所の生活の質 (QOL) の水準向上

(温かく美味しいご飯の提供、診療等)

平常時には「防災ステーション」として、災害時の具体的活動を想定した、**総合防災訓練**(避難訓練(ホテル避難含む)+高機能ユニット展開訓練+DMAT活動訓練等)や**防災セミナー**を実施

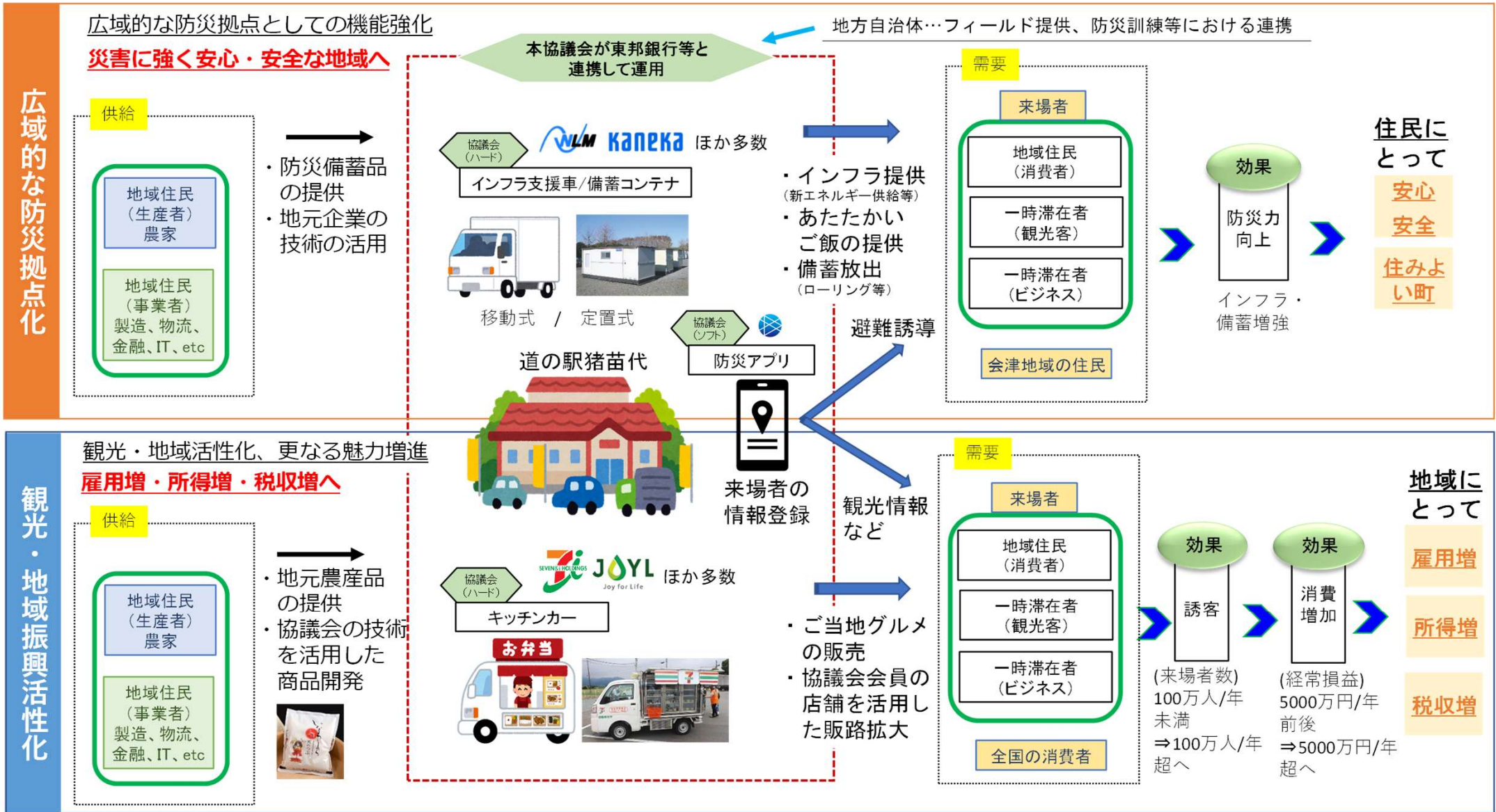


ふくしま総合災害対応訓練機構(日本総合研究所、東邦銀行等)が福島RTFで実施している**ドローンを活用した訓練ノウハウ**を応用



秋山記念生命科学振興財団と日本赤十字北海道看護大学が北海道で実施している**厳冬期災害訓練の知見**を応用

(参考2) プロジェクト取組効果の発現に至る流れ (イメージ)



有用性・妥当性、事業性、拠点の課題等を検証・整理

②DXプロジェクト：「技術情報」データベースの構築に向けた検討

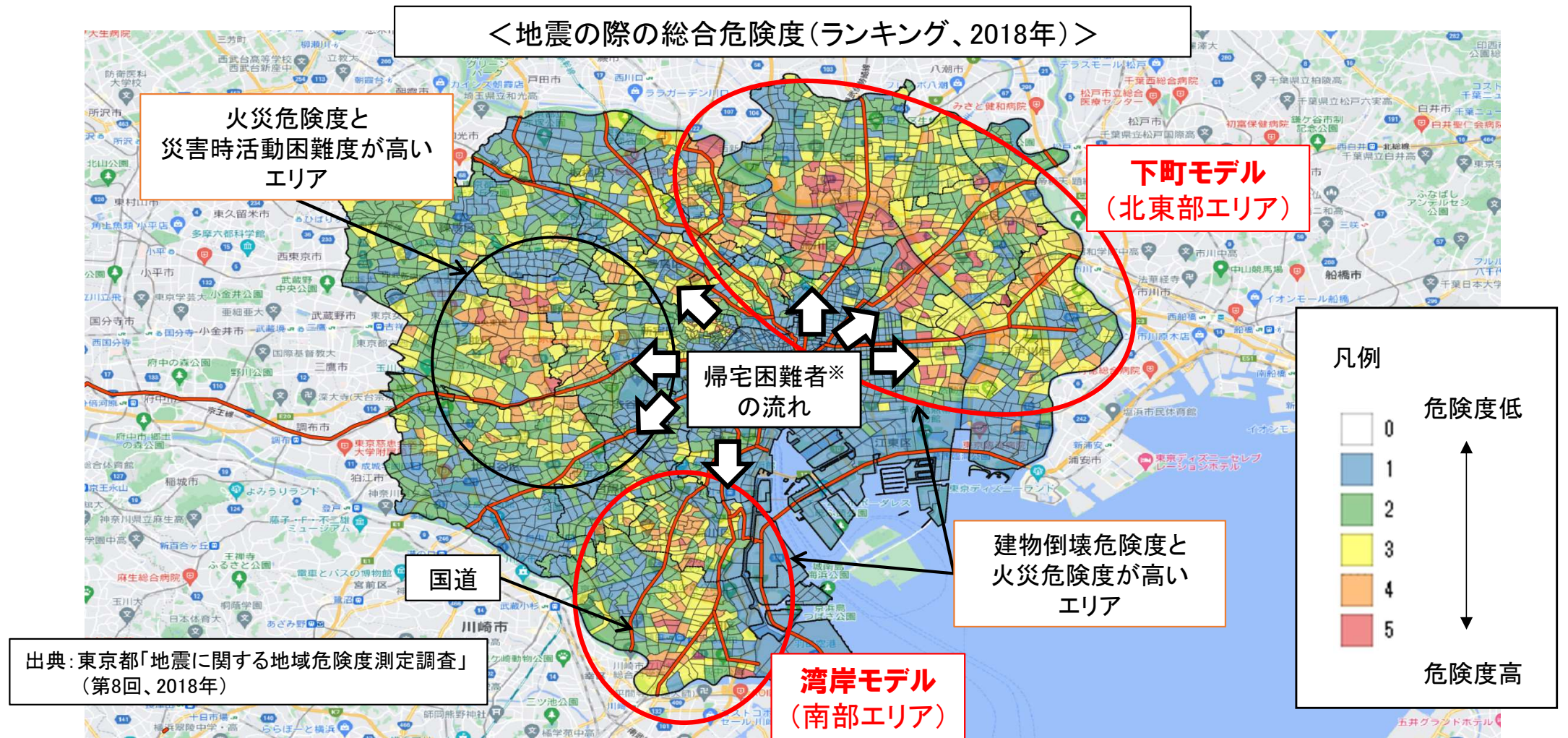
- 医療・防災産業創生に係るコンテンツの集約・高度化に向けて、会員企業の製品・サービスのうち、「地域振興・防災力向上」プロジェクトに関係する技術情報を体系的に収集・把握するとともに、幣協議会設立後にアプローチ等のあった企業とその製品・サービスに関する情報についても整理。
- これらの情報を統合・蓄積し、医療・防災産業の創生に資する「技術情報」データベースとして整備中。

●医療・防災産業創生協議会(事務局)にアプローチのあった企業の製品・サービス(例)

企業名	企業種別	分類	製品・サービス
A社	その他の投資業	コンテナ ロジスティクス	・中古自動車の仕入れ、販売 ・日本から海外に輸出する中古自動車の輸送
B社	他の一般機械器具卸	コンテナ	・折りたたみ可能コンテナ
C社	木造建築工事業	コンテナ	・移動式木造建築
D社	他窯業土石製品製造	抗菌・抗ウイルス 加工技術	・抗菌・抗ウイルス加工技術を応用した製品 (水処理装置等)
E社	土木工事業	地下シェルター	・完全防水耐震地下シェルター
F社	非鉄金属卸	コンテナ昇降装置	・コンテナ昇降装置
G社	婦人・子供服卸	衣類	・防災用携帯衣類キット

③地域防災力強化プロジェクト：官民連携メカニズムの構築に向けて

- 大規模災害(首都直下地震等)に際し、救助活動や物流の前提となる道路機能を維持するうえで、帰宅困難者の適切な保護が求められるが、官側のみの対応では十分ではなく、官民連携による取組が必要である。
- 「下町モデル」の好事例形成に向け、台東区内の国道6号沿線(浅草橋～浅草エリア)を中心に取組を実施(南部エリアも取組中)。



令和4年度事業計画(案)

本年度（R4年度 2年目）の活動（案）

先進事業の社会実装として優先的に取り組むプロジェクト「提言1 高機能・多用途コンテナと管理運用システムの開発」及び「提言2 医療・防災に関係する主に技術情報データを収集・把握・分析するためのデータベース化（集約・構築）」を**実施（具体化）**する方針。

本年度の中心的な活動

横展開による市場規模拡大

（ネットワーク化）

東北モデルでの取り組みを蓄積し横展開（市町・県・国、商工会、観光協会等組織との連携等、全国での横展開を視野に）

防災道の駅（広域防災拠点） → 道の駅（地域防災拠点） → 避難所他（地域防災拠点）

※地域の抱える課題を医療・防災産業創生の取り組みを通して解決する場として「道の駅」を捉え、展開

※平常時は地域活性化に貢献し、災害時には防災力を発揮することで安全・安心に暮らせる地域創生に寄与

産業創生のマグニチュードを増大させる取り組み

- 「医療・防災」に係る食と農振興プロジェクト
 - ・災害食（保存食）としての伝統的和食普及プロジェクト
 - ・二拠点生活（デュアルライフ）促進プロジェクト
 - 東北モデルの一部として本年度から取り組み開始を予定**
- 「医療・防災」に係る金融プロジェクト
- 「医療・防災」に係るロボットプロジェクト

官需

民需

海外

「地域振興・防災力向上」プロジェクト （東北モデル 福島）

- ◎東北モデル実証事業（プロトタイプ確立）
- 防災ISOプロジェクト

- 道の駅利用者情報活用プロジェクト
- 高機能コンテナ管理運用プロジェクト

DXプロジェクト

「技術情報」データベースの構築

- ◎医療・防災関連企業等情報データ化プロジェクト
- * 「医療用コンテナの保有状況及び感染収束後の利用意向調査」の実施を検討

防災工業団地
プロジェクト

病院船（多目的船）
プロジェクト

海外展開（市場）を睨み大阪万博に資する連携を模索

「地域振興・防災力向上」プロジェクトの取組体制（全体設計）

- ・学校や公民館等での出張オーラルケア
- ・山間部等における移動診療



- ・地元農産品を使用したご当地グルメの提供
- ・生鮮食品の移動販売

FUJI INDUSTRIES CO., LTD.
 Kaneka
 FANCL
 SUNSTAR
 健康・医療
 食事
 JOYL
 Kaneka

FUJI INDUSTRIES CO., LTD.

丸和運輸機関



- ・ホテル避難の体験会

- ・道の駅利用者データベース構築
- ・防災アプリとの連動 (ローリングストックなど)



避難/備蓄計画 (アプリ)

JGC 日揮ホールディングス株式会社

災害訓練 (教育)



コンテナ

備蓄品

小売



- ・RVパーク利用者向けサービス

コンテナ

WLM
 IHI
 Kaneka
 WLM



- ・冬期・積雪も活用した再生可能エネルギーの利用拡大
- ・周辺で開催されるイベントへの貸出